

令和2年度第3回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和2年12月10日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 直近の原木需要は、製紙工場では依然として低水準で推移しているものの、合板工場をはじめとする製材工場等では段階的に回復傾向にあり、原木の引き合いが強まっている。また、一部の工場では原木の不足感がみられ、供給が追いついていないとの意見もあったが、製材品の需要動向については、まだ先行きが不透明な状況となっている。
以上の状況を踏まえ、今後の製材品の需要動向と、今後冬期間にかけて増加する民有林材の供給量を見極めながら、需給バランスに応じて供給調整の対策を講じることを求める。
- 5 主な意見
 - (1) 例年通り請負作業に入っている事業者が多いことに加え、原木価格の低迷で切り控えしている事業者もあることから、出材量は低調で推移している。例年であれば今後民有林からの出材量が増えてくるため、1月以降需給バランスが取れてくると思われる。一方で、原木価格の低迷や鈍い製品荷動きが続けば、出材量が例年よりも少なくなることも考えられる。
 - (2) 春以降減産により原木の受け入れを制限してきた製材工場や合板工場の稼働率が段階的に高まっており、原木受入量も増加し、引き合いが強まっている。これに出材が追いついておらず、原木に不足感が出ており、一般材は価格も強含んでいる。
 - (3) 製品荷動きは回復傾向にあり、例年並みに戻りつつある製品もあるが、まだ昨年よりも動きは悪い。また、年明け以降の需要の見通しがつかず、価格も地域や製品によっては底打ち感があるものの、全般には低迷している。
 - (4) 低質材は、バイオマス用は在庫が高水準となっているが、価格は保合で推移している。一方で、製紙工場では紙需要の減少を受け、減産や原木の受入制限を続けている。また、材の伐出を伴わない代替事業の発注については、事業者等の経営に貢献している。
 - (5) 米国向けのフェンス材等の輸出及び中国向け原木輸出が順調に推移しており、今後も好調に推移すると思われる。